

事業活用活性化計画目標評価報告書

活性化計画名	下野市農村地域活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
栃木県下野市	92169	1	H21～H25	H21～H25
活性化計画の区域				
下野市全域				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
交流人口の増加	58.96%	171.39%	290.69%	

(コメント)

平成21年度、22年度に整備した地域振興交流施設における地元農畜産物や加工品等の販売を通して、国道新4号を利用する都市住民の客数が23年度から増加したものと考えられる。

H15～H19交流人口（人）

	実績
15	763,960
16	776,160
17	724,252
18	685,887
19	539,221
計	3,489,480

H21～H25交流人口（人）

	目標	実績	達成率
21	597,000	438,178	73.40%
22	568,000	448,373	78.94%
23	1,303,000	3,112,445	238.87%
24	1,461,000	2,890,398	197.84%
25	1,618,000	2,580,697	159.50%
計	5,547,000	9,470,091	170.72%

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

① 地域振興交流施設整備

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
受入機能強化施設	地域振興交流施設整備		下野市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
道の駅しもつけ	H21	H22	H23. 3. 26
事業の効果			
<p>都市農村交流の拠点施設として、農産物直売・加工・物産・食材供給施設を整備した。ここにおいて、地元農畜産物を販売したり、加工品や料理のメニューに地元食材を利用することで、地域農業の活性化と観光客の増加に繋がっている。</p>			
上記事業効果を判断した事業			
<p>○道の駅しもつけ2周年大創業祭（コミュニティ施設（会議室）を物販の会場として、3月26日のオープンを記念して創業祭を開催）</p> <p>○県内ラーメン対決（栃木県内のラーメンの案内と販売）</p> <p>○しもつけかんぴょうまつり（かんぴょう製品の販売）</p> <p>○栃木県漬物グランプリ（栃木県漬物組合による販売とアンケート収集）</p> <p>○栃木県米菓組合イベント（栃木県米菓組合による販売）</p> <p>○第2回下野スイーツ&ブレッドグルメフェア（コミュニティ施設（会議室）を物販の会場として、市内の多く点在するスイーツとパンの販売。14店舗が出店）</p> <p>○秋の収穫祭（コミュニティ施設（会議室）を物販の会場として、農産物出荷者協議会、加工研究会がけんちん汁やおこわ等を販売）</p>			

②情報発信施設整備

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
受入機能強化施設	情報発信施設整備			下野市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
道の駅しもつけ	H21	H22	H23.3.26	
事業の効果				
<p>市内観光客等の入込数の増加と地域一体となった交流の促進を図るために、情報発信施設を整備した。</p> <p>これにより、ポスター掲示やパンフレットを配布するほか、デジタルサイネージ（電子看板）を設置し、動きのある情報で市内の観光やイベント情報を分かりやすく伝え、集客増に繋げた。</p>				
上記事業効果を判断した事業				
<p>○下野市と国土交通省の大型モニターによる市紹介や道路情報の提供。</p> <p>○ipadを活用した下野市の紹介。</p> <p>○ポスター掲示、チラシ配布によるイベントPR。（馬型埴輪の展示、天平の花まつり、天平の芋煮会、各種講演会、文化課事業、保留地公売、栃木県観光、JR東日本、その他近隣市町のイベント等）</p> <p>○新4号国道県内6車線化県民祝賀会（県内の路線6車線化完成による記念式典、栃木県による「とちぎの道」パネル展示等）</p>				

③特産品体験学習施設

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
受入機能強化施設	特産品体験学習施設			下野市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
道の駅しもつけ	H21	H22	H23.3.26	
事業の効果				
<p>地元特産品を実際に体験して地元産材料をアピールし、地産地消を推進するための特産品体験学習施設整備を実施した。</p> <p>平成23年11月より地産地消の推進のために、地元農産物を利用した料理教室「食のオープンスクール」を毎年開催したほか、市民グループによるかんぴょうをテーマにしたツーリズム企画により、埼玉県内からの参加者を募りかんぴょう巻きの調理体験を実施することで、生産者をはじめとする市内居住者と都市部在住の方との交流を図った。</p>				
上記事業効果を判断した事業				
<p>○食のオープンスクール（道の駅しもつけに関連する店舗等の調理人を先生とし道の駅で販売する野菜等を利用し料理教室を開催 全7回172名参加）</p> <p>○第1回ゆうがお・かんぴょう需要拡大研究分科会（栃木県の食の回廊の一つ、歴史とロマンのかんぴょう街道推進協議会による、かんぴょうを使ったレシピ開発）</p> <p>○歴史とロマンのかんぴょう街道ツアー（市民団体かんぴょう家族実行委員会による、埼玉県内からのバスツアーを開催。恵方巻きやかんぴょう汁の調理、ふくべの絵付け体験、2回開催計バス3台）</p>				

④ イベント施設等

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
受入機能強化施設	イベント施設等			下野市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
道の駅しもつけ	H21	H22	H23. 3. 26	
事業の効果				
<p>一年を通じてイベントを開催し、都市住民の長時間滞在と地域住民との交流を推進するために、イベント施設や芝生広場を整備した。</p> <p>収穫祭や創業祭等のイベント時に、農産物や加工品の出荷者による催しを実施し、生産日本一を誇るかんぴょうに関するイベントや近隣の下野薬師寺史跡まつりの開催などで、地域住民や観光客との交流を図った。</p>				
上記事業効果を判断した事業				
<p>○しもつけかんぴょうまつり（かんぴょうむき実演・体験、ゆうがおの種飛ばし大会）</p> <p>○救急フェア（消防署の活動紹介、救急車・はしご車の展示）</p> <p>○四国高松讃岐太鼓実演（「歴史文化交流協定」及び「災害時相互支援協定」の都市提携を締結した高松市との文化交流イベント）</p> <p>○下野市フリーマーケット（環境美化推進委員会によるごみの減量化推進の一環として開催）</p> <p>○栃木刑務所家具販売会（栃木刑務所主催による受刑者の作製した家具の販売）</p> <p>○道の駅イルミネーション（冬季を中心に道の駅の本体やイベント広場樹木、物見塔のイルミネーション装飾）</p> <p>○下野文化遺産フェスティバル（子供たちによる太鼓やお囃子演奏、室内での茶華の発表、着物礼法の開催）</p>				

◆総合評価

(コメント)

地域振興の中心となる施設が設置されたことにより、地域農業の活性化をはじめ、市内外から多くの都市住民が訪れ交流人口の増加に繋がった。

今後は、まだ実施していない地域生産組織等との連携を図った都市住民や子どもたちが農業体験できる場の提供及びイベント開催や道の駅を拠点としての史跡や花、公園などの観光施設を周遊するコースを設定するなど、観光協会との連携を強化し、更なる交流人口の増加が期待できる。

◆上記総合評価に対する第三者の意見

(コメント)

道の駅しもつけの開業以来、物産販売、催事、イベントの拠点ができたことにより、交流人口の増加に大いに貢献している。「通り過ぎる人口を下野市に止める」という第一ステージは大成功と評価できる。

今後期待される第二ステージとしては、道の駅に集まった人々をもう一步下野市の奥へ誘うことであると思う。三王山公園の整備が進めば、薬師寺周辺と共に道の駅を拠点とした史跡観光コースの設置等すべきである。

「しもつけかんぴょうまつり」や「秋の収穫祭」など、地域農業の振興につながる様々なイベントが継続的に開催され、また、下野スイーツ&ブレッドグルメフェアなど、菓子店やパン店が点在する下野市の特色を生かしたイベントがおこなわれており、地域振興に貢献している。

道の駅しもつけ運営評価委員会